

お年寄り、障害者の自立を支える歯ブラシ誕生

『360°型歯ブラシのピバ社、歯垢除去データを公開。大阪府歯科医師会の診療チームがお年寄りや障害児(者)の扱いやすい全周型歯ブラシとして日本障害者歯科学会で発表。』

歯ブラシのベンチャー企業、有限会社ピバテック(本社:大阪市浪速区)は、360°型に植毛された歯ブラシを主に健常者向けの商品として製造・販売してきたが、360°型で手首を返す必要がないため、力の弱いお年寄りや、磨き方のわからない障害児(者)からの支持も高く、ユニバーサルデザイン歯ブラシとの認知も得てきた。

今回、利用者が不安に思っていた歯垢除去効果に至っては、大阪府歯科医師会肢体不自由児歯科診療センターを中心に、多くの協力者を通じて、優れた臨床データも表れたので報告する。歯垢除去効果は、従来の植毛歯ブラシとの間には有意な関連は見られなかったが、心身障害児(者)自身が、ピバ社の360°型歯ブラシを使用した場合、非常に興味のある知見を見た。



## 1. 経緯

大阪府歯科医師会肢体不自由児(者)歯科診療センター(CPセンター)を通じて、以下の臨床データを取得した。

CPセンターに来院した心身障害児(者)	20名
ブラッシングのプロとしての歯科衛生士および歯科医師	20名

①検索歯面として上下左右最後臼歯とし、この4歯の5歯面を9分割し計45面のプラーク残留箇所について検索した。

②新型歯ブラシ(VIVATEC社)を、実際患者本人に使用してもらい、これを検索した。

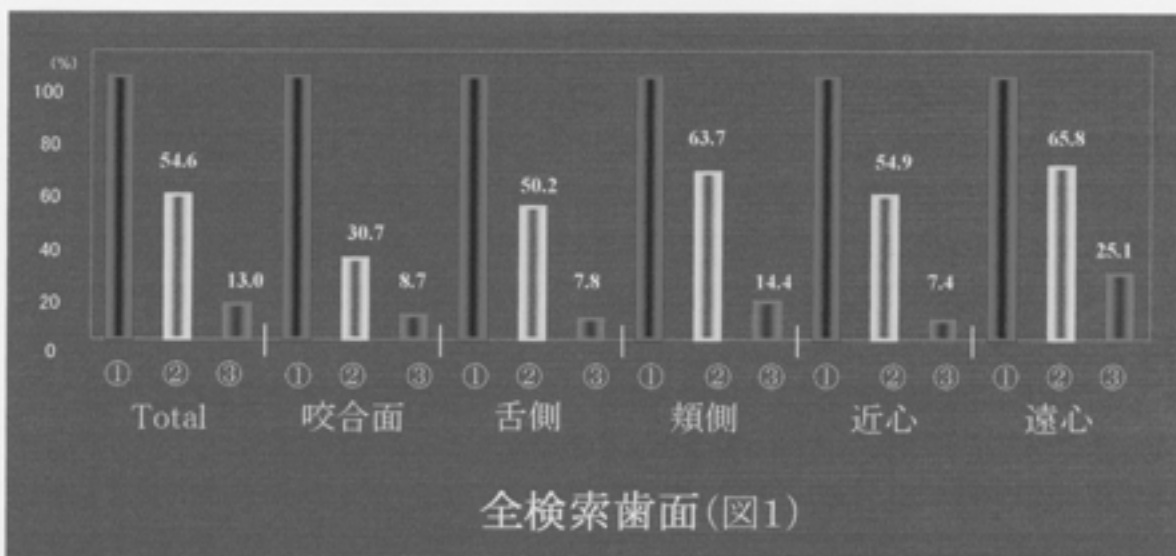
③仕上げみがきとして、その患者を担当する衛生士がブラッシングを行い、その後検索した。

チャート表にて残留プラークをチェックし上記の①で染め出した数値を100%として②および③の数値をパーセンテージ化した。

比較検討の結果では、まず全検索歯面での各部位の観察を全歯面合計、咬合面、舌側面、頬側面、近心面および遠心面と分けて検索を行った。

全歯面合計では、新型歯ブラシの患者本人使用（以下②）において 54.6%となり、衛生士による仕上げみがき（以下③）では 13.0%となった。咬合面では②において 30.7%と非常に有意な数値を示した。（図1）

## 2. 結果(歯垢除去データ)



結論として、当社の歯ブラシは、構造を 360° 型歯ブラシにすることによって、上下左右に磨き方自在で、今まで磨き方のわからなかった障害児（者）や手首の不自由な方、また歯磨きの諸動作がしづらいお年寄りでも非常に使いやすい歯ブラシとなり、したがって、従来の歯ブラシと比べ歯垢除去効果も高い除去率が表れるようになった。

詳しいデータなどは、大阪歯科大（樟葉学舎）で行われる 21 回日本障害者歯科学会で公開。同時に、徳島大学歯学部付属病院特殊歯科治療部も「脳性麻痺患者における 360 度歯ブラシの有効性について」を発表される。

## 3. 特長

毛の細さ極細 0.09~0.13mm、本数が 10,000 本以上（市販ブラシの約 10 倍）植毛された歯ブラシで、どの面からも上下左右に軽い圧力を加えながら磨くことができ、歯垢の除去に留まらず、歯肉マッサージ効果、頬粘膜のマッサージによる唾液の分泌効果も行えるのを特徴とした 360° 型歯ブラシである。